

令和8年度 上温品まちづくり協議会事業計画書

1 今年度の目標

- ・昨年同様、引き続き地域の生活課題の根底として共通する「人と人とのつながり」を解決するため、多世代交流につながる事業を実施し、新たな協力者とつながる。

2 ひろしまLMO運営助成金を活用する事業

1 事業名	①上温品ふれあいまつり	(15)事業中(1)事業目
2 特定地域共同活動の分類	(3) 地域住民の交流促進に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和8年10月17日	
(2) 実施場所	上温品小学校	
(3) 参加者数	1000 人（見込み）	
(4) 主催団体	団体名 上温品まちづくり協議会（福祉部会）	
4 取組内容	小学生児童から高齢者までの多世代が集い、上温品小学校の体育館とグラウンドで以下のイベントを開催する。 【体育館】 ・オープニング・エンディングセレモニー ・ステージ発表 ・大抽選会 【グラウンド】 ・軽スポーツ体験コーナー ・こどもの遊びコーナー ・交流コーナー ・健康相談コーナー ・ふれあいコーナー ・福祉コーナー	
5 目的・効果	(1) 目的（どうして実施するのか。実施する背景は何か。） 地域最大の行事「ふれあいまつり」を地域の賑わいづくり、多世代の交流イベント、地域の伝統行事として継続する。 (2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。） 小学校参観後の開催のため、小学校児童をはじめ多世代の地域住人が集うことにより、これまで以上に地域内の住人の絆が深まり地域内の活性化、賑わいづくりに貢献できる。 交流コーナーを開催することで地域団体や町内会等の活性化、令和7年度に復活させたステージ発表を拡大することで、地域の活性化、人材交流・発掘につながる。	

2 ひろしまLMO運営助成金を活用する事業

1 事業名	②ほっとカフェ上温	(15) 事業中 (2) 事業目
2 特定地域共同活動の分類	(6) 地域の高齢者、障害者等への支援に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和 <u>8</u> 年 <u>4</u> 月～ 令和 <u>9</u> 年 <u>3</u> 月 (第3水曜)	
(2) 実施場所	温品福祉センター	
(3) 参加者数	<u>200 (延べ)</u> 人 (見込み)	
(4) 主催団体	団体名 <u>上温品まちづくり協議会 (福祉部会)</u>	
4 取組内容	老若男女問わず、地域の皆さんが気軽に立ち寄って交流する憩いの場にする。町内会加入の有無に関係なく参加できる集いの場所とする。 参加した地域の皆さんには、コーヒーや茶菓子の提供や手芸・工作・講演により、交流してもらう。 第3水曜日の10:00～12:00に開催する。	
5 目的・効果	(1) 目的 (どうして実施するのか。実施する背景は何か。) 本カフェは、令和5年10月に地域包括支援センターの主導でオープンしたものを継続実施するのを目的とする。 まちづくり協議会の事業とすることにより、町内会加入の制限がなくなり、年齢に関係なく誰でも参加できるオール上温品の居場所づくりとする。 (2) 効果 (事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。) 住民が集い顔を合わせて気軽に集える居場所となり、住民の社会的孤立を防ぐことができる。	

1 事業名	③子育てサロン「こんぺいとう」	(15)事業中(3)事業目
2 特定地域共同活動の分類	(5) 地域のこども及び子育て世帯への支援に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和 <u>8</u> 年 <u>4</u> 月～ 令和 <u>9</u> 年 <u>3</u> 月（第1水曜）	
(2) 実施場所	温品福祉センター	
(3) 参加者数	<u>120</u> 人（見込み）	
(4) 主催団体	団体名 <u>上温品まちづくり協議会（子ども育成部会）</u>	
4 取組内容	子育て世帯が孤立することなく、気軽に集い、ゆったりした時間を過ごしながら交流できる居場所（オープンスペース）を作り、保護者同士の連携作りの支援をする。 児童本や遊具等を購入し、こどもたちが遊べる環境を整えるとともに、劇団を呼び、講演を行う。	
5 目的・効果	(1) 目的（どうして実施するのか。実施する背景は何か。） 「こんぺいとう」をまちづくり協議会の事業に組み込むことで、遊具や本を充実することができる。また、町内会未加入の方でも自由に参加して交流の場を広げることにより、子育て世代が孤立することなく、地域の中で子育てしやすい環境を整える。 (2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。） 子育て世代を地域ぐるみで見守り、支援をすることができる。 オープンスペースが近場にあることで、子育てしやすい上温品にしていく。	

1 事業名	④かみぬくファーム	(15) 事業中 (4) 事業目
2 特定地域共同活動の分類	(3) 地域住民の交流促進に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和 <u>8</u> 年 <u>4</u> 月 ～ 令和 <u>9</u> 年 <u>3</u> 月	
(2) 実施場所	88ハウス、上温品全域	
(3) 参加者数	<u>100 (延べ)</u> 人 (見込み)	
(4) 主催団体	団体名 <u>上温品まちづくり協議会 (子ども育成部会・事務局)</u>	
4 取組内容	令和5年度から88ハウスで継続している同事業を継続して行う。サツマイモ作りから収穫までをするとともに、地域の落ち葉等を清掃し、焼き芋会を行う。 年4回計画：5～6月苗植え、6～7月草取り、10～11月芋掘り、11～12月焼きいも会 地域内の休耕地を活用し、1年を通して野菜等を栽培し、多世代での農業体験、地域の賑わいづくり、収穫物での料理教室の開催やイベント時の食材使用など地域活性化を目指す。	
5 目的・効果	(1) 目的（どうして実施するのか。実施する背景は何か。） 上温品の自然豊かな地域資源・特性を活かし、サツマイモだけでなく、様々な野菜等を育てることで、多世代での農業体験、交流が期待される。 また、落ち葉清掃や休耕地活用により、地域の景観維持の重要性や有害鳥獣害対策、防災意識の向上（落ち葉によるケガ、落ち葉詰りの解消）だけでなく、ものづくりの面白さを学ぶことが期待される。 (2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。） 地域資源を利用することで地域の良さを発見し郷土愛を育む。また、防災意識の醸成と社会奉仕活動の意欲が育まれる。 保護者の参加が多数見られ、保護者世代が地域活動に参加することで、こどもも含め多世代交流ができ、人材発掘の場とすることで、地域の活性化に繋げる。	

1 事業名	⑤かみぬくファミリー運動会	(15) 事業中 (5) 事業目
2 特定地域共同活動の分類	(3) 地域住民の交流促進に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和 <u>8</u> 年 <u>5</u> 月 <u>30</u> 日	
(2) 実施場所	上温品小学校	
(3) 参加者数	<u>300</u> 人（見込み）	
(4) 主催団体	団体名 <u>上温品まちづくり協議会（子ども育成部会）</u>	
4 取組内容	小学校の運動会終了後、家族参加型の運動会を開催する。競技性の低い種目にする事で、多世代の参加を促し安全に運動会を行う。 参加者にかき氷を提供するとともに、景品を配付する。	
5 目的・効果	(1) 目的（どうして実施するのか。実施する背景は何か。） 小学校運動会という参加しやすい機会を活かし、保護者世代が「顔見知り」から「関わり手」へと一歩踏み出すきっかけをつくる。親子・多世代で楽しみながら、地域活動を特別なものではなく、身近でゆるやかなものとして感じてもらい、今後の町内会・地域行事への参加促進につなげる。 (2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。） 保護者世代が地域活動を知る・話す・関わる第一歩となり、こどもを介した多世代交流の促進につなげる。地域団体の高齢化問題解決へ、若い世代の人材交流・育成へのきっかけづくりの一助にする。 また、将来的な地域行事・防災・見守り活動への参加の基盤づくりへつなげる。	

1 事業名	⑥町民ハイキング	(15) 事業中 (6) 事業目
2 特定地域共同活動の分類	(2) 地域住民の健康の維持増進に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和 8 年 1 1 月 1 日	
(2) 実施場所	安佐動物公園	
(3) 参加者数	1 0 0 人（見込み）	
(4) 主催団体	団体名 上温品まちづくり協議会（健康保健部会）	
4 取組内容	上温品住民から参加者を募り（多数の場合は抽選）、貸切バスにて昨年好評だった安佐動物園に行き、比較的勾配のない園内を見てまわることで、参加者と一緒に昼食をとりながら多世代交流を行う。上温品より勾配が少ないことで歩きやすく、今まで参加できなかった方の健康増進にもつながる。 若い世代の親子での参加で、地域活動への認知度が低い世代の参加につながり、地域活動への参画へつなげ、地域コミュニティを活性化していく。	
5 目的・効果	(1) 目的（どうして実施するのか。実施する背景は何か。） 令和6年度まで実施していた「町民ハイキング」は菰口憩いの森公園まで登っていたが、高齢化し坂を登ることが困難になってきている。動物園までバスで行くことで参加者が増えることが期待される。今まで以上に多世代交流ができ、勾配が少ないことで今まで参加できなかった方の健康増進につながる。 (2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。） 実施場所を変えることで、今まで参加できなかった、してこなかった方々の交流につながり、住民同士の人材交流の活性化と地域活動への参加の促進が期待できる。	

1 事業名	⑦みんなで防災まち歩き	(15) 事業中 (7) 事業目
2 特定地域共同活動の分類	(8) 地域の防災又は減災に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和 8 年 4 月～令和 9 年 3 月	
(2) 実施場所	上温品地区	
(3) 参加者数	100 (延べ) 人 (見込み)	
(4) 主催団体	団体名 上温品まちづくり協議会 (環境安全部会)	
4 取組内容	令和 7 年度は「かみぬくクリーン大作戦」として菰口の清掃活動を展開したが、今年度は住民が地域内を一緒に歩き、清掃活動だけでなく、地区全体の防災や防犯にも目をむけて、上温品地区の安全と環境整備を確認しながら多世代交流を行う。要改善場所があれば、関係部署につなげていく。地区全体で一斉に行わず、参加しやすいよう隣接する町内会単位ごとに開催できるよう調整していく。町内会単位での開催に当たっては、町内会員限定とするのではなく、町内の掲示板にチラシを掲載する等、町内会員以外の住民も参加できるようにする。	
5 目的・効果	(1) 目的 (どうして実施するのか。実施する背景は何か。) 地域の防災マップを作成してから 10 年以上が経ち、見直しが必要な時期に来ている。それに向けて、防災だけでなく、防犯、こども 110 番の家、清掃など実際に住民に確認してもらいながら、マップ作製につなげていく。また、町内会員以外の住民にも参加してもらい、まち歩き等を通じて、町内会活動の重要性等を知ってもらう。 (2) 効果 (事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。) 参加型で体験し、実際にみることで危機感を持ってもらい、防災活動につなげてもらう。地域全体で行うことで、人材交流の活性化、多世代交流、地域活動への参加の促進が期待できる。	

1 事業名	⑧いこいの場作り	(15) 事業中 (8) 事業目
2 特定地域共同活動の分類	(12) 地域の魅力の向上に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和 <u>8</u> 年 <u>4</u> 月 ～ 令和 <u>9</u> 年 <u>3</u> 月	
(2) 実施場所	法道寺川中流部	
(3) 参加者数	<u>120 (延べ)</u> 人 (見込み)	
(4) 主催団体	団体名 <u>上温品まちづくり協議会 (ふるさと創生部会)</u>	
4 取組内容	高尾山を源とする法道寺川の中・上流域には、岩肌を清水が流れる景勝スポットが随所にある。これらの内、最北流域には 250m も苔の生えた岩場が続き、連続する階段状の小滝が 7 個存在する。 この場所へのアプローチ道は、古い山道であり未整備である。この山道を登りやすいように整備し、地域イベントに活用できるようにハイキングコースとして整備する。 岩場が多いため、足掛かりをつけ、ロープ等で遊歩道を歩きやすく整備する。溪流を好む野鳥や渡り鳥も飛来しているので、エサ台等を整備する。 幹線道路からの看板を設置し、登山道へのアプローチを明確にする。	
5 目的・効果	(1) 目的 (どうして実施するのか。実施する背景は何か。) 上温品の魅力スポットが少ないが、自然豊かな地域特性を活かした未整備の景勝スポットが存在する。この場所を整備していくことで、近隣住民他、多くの方々に訪れてもらい、地域の賑わいづくり、多世代交流ができる場を作る。 (2) 効果 (事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。) 山道を整備し景勝スポットへのアプローチが容易になると、より多くの方々が訪れ、上温品の魅力が増し、地域活性化になる。来訪者の健康増進にもつながる。将来的に、イベントを開催することで、地域の賑わいづくりになる。	

1 事業名	⑨地域人材活用事業	(15) 事業中 (9) 事業目
2 特定地域共同活動の分類	(15) (1)～(14)に掲げる活動の新たな担い手の確保に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和 <u>8</u> 年 <u>4</u> 月 ～ 令和 <u>9</u> 年 <u>3</u> 月	
(2) 実施場所	上温品全域	
(3) 参加者数	<u>1000 (延べ)</u> 人 (見込み)	
(4) 主催団体	団体名 <u>上温品まちづくり協議会 (事務局)</u>	
4 取組内容	上温品まちづくり協議会が主体となつて行う事業に対して、まちづくりのための行事や伝統・文化等の継承・保存、自然環境の保全など、地域活性化の取組を促進するため、地域在住の町民等が永年にわたって蓄積した知識・技術等を地域活動に還元する人材育成を推進する。行事等の協力者に対して、上温品独自のポイントを付与する「上温品まちづくりポイント事業」を実施する。 ポイントが貯まった地域住民に対しては、地元のスーパーの商品券を配布する。	
5 目的・効果	(1) 目的 (どうして実施するのか。実施する背景は何か。) 地域団体、町内会等で役員不足、人員不足が進行しており、地域コミュニティが崩壊しつつある。地域住民が地域活性化事業等に積極的に参加できる環境を整え、地域の課題解決やコミュニティの発展等を促進する。 (2) 効果 (事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。) 地域団体、町内会等における役員・人員不足、高齢化等の現状に対して人材交流・育成することで、地域の課題解決やコミュニティの発展等が期待でき、地域が活性化する。 若い世代の人材を発掘していき、持続可能な地域を目指す。	

1 事業名	⑩学習ひろば	(15) 事業中 (10) 事業目
2 特定地域共同活動の分類	(5) 地域のこども及び子育て世帯への支援に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和 <u>8</u> 年 <u>夏休み、冬休み中</u>	
(2) 実施場所	温品福祉センター	
(3) 参加者数	<u>100 (延べ)</u> 人 (見込み)	
(4) 主催団体	団体名 <u>上温品まちづくり協議会 (事務局)</u>	
4 取組内容	小～高校生を対象に宿題等の勉強ができる場を提供する。自習を基本とし、分からないところは見守りの大人や上級生あるいはボランティアの大学生等が教える。 令和5～7年度の実績から長期休暇（夏休み、冬休み）に集中的に行う。	
5 目的・効果	(1) 目的（どうして実施するのか。実施する背景は何か。） 地域に公民館や図書館などの自習スペースがないのが実情である。自宅での独習だけでなく、同じ仲間と一緒に勉強をしたいと希望しているこどもたちに宿題等の勉強ができる場を開設する。自習を基本とするが、分からないところを見守りの大人や上級生あるいはボランティアの大学生が支援するなど多世代の交流を図りながら、こどもたちの健全な育成につなげる。 (2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。） 自習を基本とする学習支援であるが、見守りの大人等を含む集団での学習であるため、学習意欲の向上だけでなく、地域の中での居場所づくりとしての役割が期待できる。学力向上に少しでも寄与したい。 また、見守りボランティアを募集することで、地域の中での人材発掘、育成を行う。	

1 事業名	⑪スマホを楽しむ	(15)事業中(11)事業目
2 特定地域共同活動の分類	(4) 地域住民の生涯学習に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和 <u>8</u> 年 <u>4</u> 月～ 令和 <u>9</u> 年 <u>3</u> 月	
(2) 実施場所	温品福祉センター	
(3) 参加者数	<u>50 (延べ)</u> 人 (見込み)	
(4) 主催団体	団体名 <u>上温品まちづくり協議会 (事務局)</u>	
4 取組内容	スマホをもっと活用したいと思っているシニア世代を対象にスマホを楽しむ術を学ぶ。 ・メールを楽しむ ～ 文章を入力、ショートメール・ラインメールの送受信 ・TV 電話を楽しむ ～ ライン電話 ・知りたいことを探す ～ ホームページ検索、SNS ・防災情報を得る～ ひろしま防災情報、NHK 防災、キキクル スマホに詳しい人から操作を学ぶほかに、学生ボランティアにマンツーマンで質問して個別に問題解決する。	
5 目的・効果	(1) 目的（どうして実施するのか。実施する背景は何か。） スマホを活用して日常生活をより楽しくするだけでなく、災害時など非常時にスマホを活用して情報発信、情報共有ができるようになることで避難等がスムーズにできるようになる。 (2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。） 災害時に、情報共有することで避難難民を出さないようにすることができる。学生ボランティアに教えてもらうことで、若い世代に地域活動への参加を促すことができ、地域の活性化につながる。災害時の連絡網確保の一助となる。	

1 事業名	⑫地域支援事業	(15) 事業中 (12) 事業目
2 特定地域共同活動の分類	(13) 地域課題等の把握に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和 <u>8</u> 年 <u>4</u> 月 ～ 令和 <u>9</u> 年 <u>3</u> 月	
(2) 実施場所	温品福祉センター	
(3) 参加者数	<u>50 (延べ)</u> 人 (見込み)	
(4) 主催団体	団体名 <u>上温品まちづくり協議会 (事務局)</u>	
4 取組内容	上温品まちづくり協議会が発足してから実施した事業及び新たに地域課題へと浮上した課題に対しての協議や相談窓口となり、今後の事業化や対応機関へとつなげていく。 ・有害鳥獣害対策 ・ こども見守り体制の見直し ・ 基準服リサイクル (以上、既存事業) ・ 広報活動の支援 (全世帯把握) ・ 上温品ふれあい双六 (R7 にて一旦休止)	
5 目的・効果	(1) 目的 (どうして実施するのか。実施する背景は何か。) 令和7年度までに実施した事業や新たに浮上した課題に対して広報や相談窓口を設置することで、継続的にサポート可能であり、将来的に取り組むべき地域課題解決事業につなげていく。 (2) 効果 (事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。) 地域内の小さい困りごとでも広報、相談窓口を設置することで、今ある地域課題に対して継続的にアプローチすることができる。また、将来的に取り組むべき地域課題が掘り起こされ、住み良い上温品にしていくことができる。	

1 事業名	⑬防災推進事業	(15) 事業中(13) 事業目
2 特定地域共同活動の分類	(8) 地域の防災又は減災に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和 8 年 8 月 2 2 日～ 2 3 日、令和 8 年 1 1 月 1 5 日	
(2) 実施場所	上温品小学校及び温品福祉センター	
(3) 参加者数	2 0 0 人（延べ）	
(4) 主催団体	団体名 上温品まちづくり協議会（事務局）	
4 取組内容	地域諸団体と協力し、地域防災に係る以下のイベントを組合せ毎年開催する。 ①防災キャンプ（仮設避難所での宿泊体験） ②災害時炊き出し訓練 ③防災フェア（地域住民への防災啓発事業） ④机上避難所運営訓練 ⑤消火・模擬救助活動 ⑥マイタイムライン研修 など	
5 目的・効果	(1) 目的（どうして実施するのか。実施する背景は何か。） こども世代も巻き込み、若い世代から、地域防災に対する関心と防災に対する意識を育む。様々なイベントを組み合わせることで、発災時に慌てず落ち着いて行動できる人材を地域で養成するきっかけづくりとする。 関連団体にも参加してもらい協力体制を築くとともに、防災意識を高めてもらう。 (2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。） イベントを通じて多世代交流ができ、持続可能な地域防災活動が図られる。 イベント体験を通じて住民の防災意識が高まる。 災害時に備えての必要機材を計画的に備蓄できる。	

1 事業名	⑭防災用品の整備	(15) 事業中 (14) 事業目
2 特定地域共同活動の分類	(8) 地域の防災又は減災に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和 <u>8</u> 年 <u>4</u> 月 ～ 令和 <u>9</u> 年 <u>3</u> 月	
(2) 実施場所	上温品小学校他	
(3) 参加者数	<u>15</u> 人（見込み）	
(4) 主催団体	団体名 <u>上温品まちづくり協議会（事務局）</u>	
4 取組内容	上温品地域は、周囲を山で囲まれているため、土砂災害警戒区域が広範囲に設定されている。また、安芸灘～伊予灘～豊後水道の地震、南海トラフ地震による被害も想定されており、災害の危険性が高い。本事業では、土砂災害や地震による災害に備えて避難等に必要な防災用具や避難所の備蓄品などの防災用品の整備を行う。また、購入する防災用品の選定、購入後の活用については、以下のとおり実施する。 ・必要な防災用品のリストアップと優先付け ・購入した用品は、地域内の防災イベントなどで活用して防災教育に役立てる	
5 目的・効果	(1) 目的（どうして実施するのか。実施する背景は何か。） 上温品地区では、現在避難所生活に必要な最低限の避難所備蓄品は揃えているが、多数の人が避難したときの準備としては不十分である。本事業では発災時の避難から避難所生活までに必要な防災用具や避難所備蓄品を長期計画で整備して、災害に強い強靱な地域を構築する。また、整備した用具等は他の事業にも活用して防災教育に役立てる。 (2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。） 災害の発生が想定される地域では、発災時の避難所への移動や避難所生活に必要な用品の整備が地域の安全・安心に欠かせない。防災用品の整備と防災教育への活用のハードとソフト面からの防災対策により地域住人の安心感が高まる。	

1 事業名	⑮温品福祉センターまつり	(15) 事業中 (15) 事業目
2 特定地域共同活動の分類	(3) 地域住民の交流促進に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和 9 年 1 月	
(2) 実施場所	温品福祉センター	
(3) 参加者数	5 0 0 人	
(4) 主催団体	団体名 上温品まちづくり協議会、温品福祉センター	
4 取組内容	福祉センター、福祉センター利用団体や地域団体が協力して、地域内の多世代が参加できる、以下のイベントを開催する。 ・姿勢測定会（福祉センター） ・ワークショップ ・遊びのコーナー ・飲食コーナー ・利用団体コーナー など	
5 目的・効果	(1) 目的（どうして実施するのか。実施する背景は何か。） 温品福祉センターを除く東区の福祉センターでは、福祉センター祭りを実施しており、馬木地区や温品地区では公民館まつりを実施している。温品福祉センターでもイベントを実施して、上温品地区の活性化につなげる。 (2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。） 以前はこどもまつりを実施し、令和 7 年度は福祉センターまつりを実施した。多くの地域住民が集い、地域の多世代が交流できるイベントを温品福祉センターで開催することができた。立地環境から多くの方が楽しめ、多世代交流ができることで、地域の活性化につなげる。	

3 自主財源で実施する事業

年月日	事業名	特定地域共同活動の分類	取組内容
通年	各種団体支援事業	なし	町内一括拠出金を使用し、各種団体を支援する。